



あと伸びする子どもを育てる幼児期の教育 ～子どもの生活習慣から考える～

國學院大學

鈴木みゆき

目次

1. 子どもを取り巻く教育・保育の現状

2. 乳幼児期の子ども達に必要とされていること

3. 生活習慣は脳の土台！脳の高次機能を支えます！

4. 生活習慣を整えましょう

5. 幼児期にふさわしい生活と教育とは？

令和の日本型学校教育って
どういうこと？

コロナ禍の影響

懸念される子どもの健康問題

1. 子どもを取り巻く教育・保育の現状

中央教育審議会では、令和3年1月26日の第127回総会において「**令和の日本型学校教育**」の構築を目指して～**全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）**」を取りまとめました。

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）【総論解説】

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

社会背景

【急激に変化する時代】

- 社会の在り方が劇的に変わる「**Society5.0時代**」
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行き不透明な「**予測困難な時代**」
- 社会全体の **デジタル化・オンライン化、DX加速の必要性**

子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

【ポイント】

- ✓ これらの資質・能力を育むためには、**新学習指導要領の着実な実施**が重要
- ✓ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用**が必要不可欠

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

「日本型学校教育」とは？

子供たちの知・徳・体を一体で育む学校教育

- 学習機会と学力の保障
- 全人的な発達・成長の保障
- 身体的・精神的な健康の保障

【新しい動き】



新学習指導要領の着実な実施



学校における働き方改革

GIGAスクール構想

内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」

000821204.pdf (soumu.go.jp)

概要2 低年齢層の子供のインターネットの利用状況 - 1 (インターネット利用率)

6

- 低年齢層の子供の74.3%がインターネットを利用。通園中(0歳~6歳)では70.4%、小学生(6歳~9歳)では89.1%がインターネットを利用。
- インターネットを利用する機器は、テレビ(地上波、BS等は含まない)(46.9%)、自宅用のパソコンやタブレット等(36.8%)、ゲーム機(32.0%)が上位。

インターネット利用率(通園・在学別)



○インターネットを利用している機器 (n=2294)

スマートフォン	25.5%
契約していないスマートフォン	19.2%
携帯電話	5.3%
自宅用のパソコンやタブレット等	36.8%
学校から配布・指定されたパソコンやタブレット等(GIGA端末)	(17.2%)
■調査対象は小学生のみ (n=987)	■39.8%
ゲーム機	32.0%
テレビ(地上波、BS等は含まない)	46.9%

注1 「低年齢層の子供のインターネット利用率」及び「インターネットを利用している機器」は、回答した低年齢層の子供の保護者全員をベースに集計。
 注2 「令和2年度」の回答数は以下のとおり。総数(n=2247) 通園・通学前(0歳~6歳)(n=301) 通園中(0歳~6歳)(n=1011) 小学生(6歳~9歳)(n=935)
 「令和元年度」の回答数は以下のとおり。総数(n=2225) 通園・通学前(0歳~6歳)(n=351) 通園中(0歳~6歳)(n=974) 小学生(6歳~9歳)(n=900)
 注3 令和3年度調査から「インターネットを利用している機器」を絞り、令和2年度までは、次の15種類。「スマートフォン、格安スマートフォン、子供向けスマートフォン、契約済みスマートフォン、携帯電話、子供向け携帯電話、ノートパソコン、デスクトップパソコン、タブレット、学習用タブレット、子供向け家庭用タブレット、携帯音楽プレイヤー、携帯ゲーム機、家庭用ゲーム機、インターネット接続テレビ」

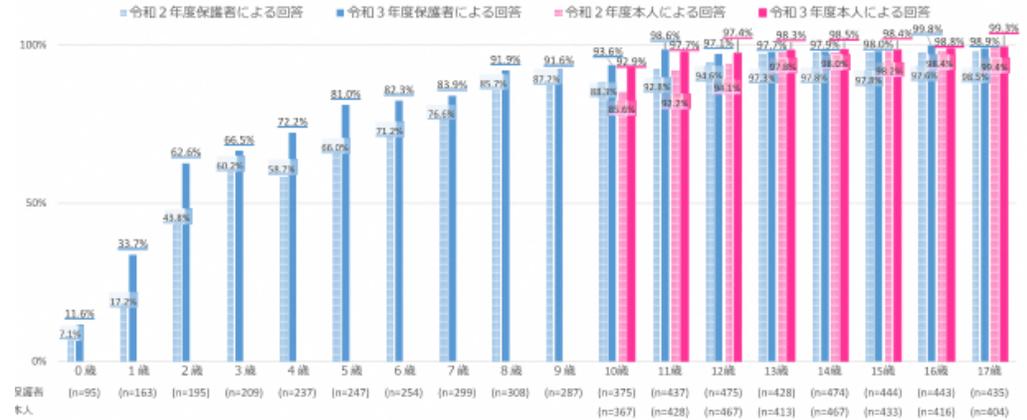
(低年齢層の子供の保護者 Q1-1, Q1-2)

概要3 年齢別のインターネットの利用状況 - 1 (インターネット利用率)

7

- 年齢が上がるとともにインターネットの利用率も高くなる傾向。
- 乳幼児の増加が目立っており、1歳児が前年度と比べて16.5ポイント増加で33.7%、2歳児が前年度と比べて18.8ポイント増加で62.6%。
- 本人(10歳以上)による回答と保護者による回答では、認識に大きな差はない。

インターネット利用率(年齢別・令和2年度から令和3年度)



注1 「インターネット利用率」は回答した青少年全員及び保護者全員、低年齢層の子供の保護者全員をベースに集計。
 注2 「令和2年度」の本人による回答数は以下のとおり。10歳(n=368)、11歳(n=448)、12歳(n=439)、13歳(n=448)、14歳(n=496)、15歳(n=489)、16歳(n=446)、17歳(n=471)。
 「令和3年度」の本人による回答数は以下のとおり。0歳(n=84)、1歳(n=169)、2歳(n=185)、3歳(n=236)、4歳(n=235)、5歳(n=244)、6歳(n=243)、7歳(n=274)、8歳(n=272)、9歳(n=305)、10歳(n=376)、11歳(n=447)、12歳(n=444)、13歳(n=443)、14歳(n=502)、15歳(n=491)、16歳(n=450)、17歳(n=480)。
 (青少年 Q1-1, 青少年の保護者 Q1-1, 低年齢層の子供の保護者 Q1-1)

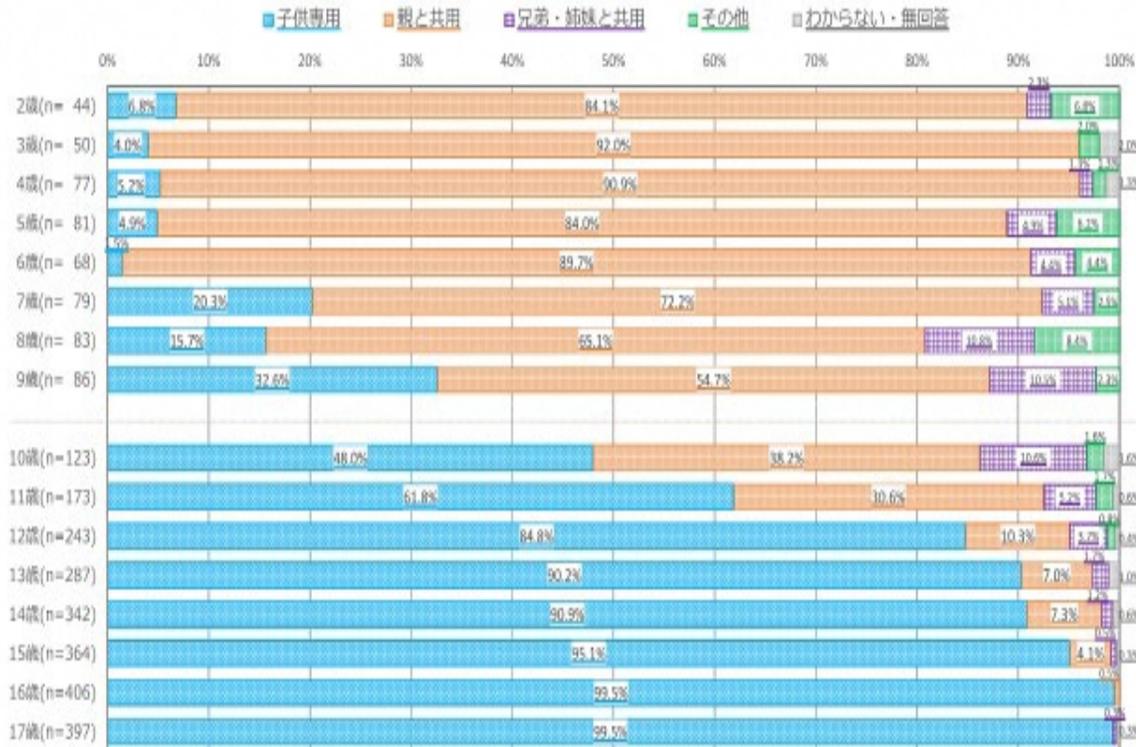
2~5歳児の5%が自分専用のスマホを持っている？！

概要6 年齢別のインターネットの利用状況 - 2 (機器の専用・共用)

10

○ 子供専用のものを使っている割合は、10歳から11歳にかけて13.8ポイント上昇し、専用と共用の割合が逆転。

機器の専用率 (年齢別・スマートフォン/令和3年度)



概要11 低年齢層の子供のインターネットの利用状況 - 4 (利用時間)

15

○ インターネットを利用している低年齢層の子供の平均利用時間は、前年度と比べ約7分増加し、約1時間50分。
○ 目的ごとの平均利用時間は趣味・娯楽が最も多く、前年度と比べ約10分増加し、約1時間35分。

低年齢層の子供のインターネットの利用時間 (利用機器の合計/平日1日あたり)



	令和3年度	令和2年度	令和元年度
平均利用時間	110.2分	102.9分	84.9分
2時間以上の割合	43.7%	48.6%	49.6%
平均利用時間	126.3分	90.6分	94.8分
2時間以上の割合	48.6%	39.7%	41.4%
平均利用時間	98.0分	91.4分	72.1分
2時間以上の割合	39.7%	46.2%	46.2%

目的ごとの低年齢層の子供のインターネットの利用時間 (利用機器の合計/平日1日あたり)

目的	1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上3時間未満	3時間以上4時間未満	4時間以上5時間未満	5時間以上	平均利用時間		
							令和3年度	令和2年度	令和元年度
勉強・学習・知育	80.8%	15.1%	2.4%	1.2%	0.2%	0.3%	31.5分	21.2分	25.0分
趣味・娯楽	27.7%	34.8%	21.9%	9.4%	3.4%	2.8%	95.2分	85.4分	73.6分
保護者・友人等とのコミュニケーション	84.8%	10.5%	2.6%	1.5%	0.6%	-	18.4分	11.2分	12.0分
上記以外	90.9%	8.2%	-	0.9%	-	-	8.7分	9.7分	16.7分

(注1) 平均利用時間は、「使っていない」は0分とし、「わからない」「無回答」を除いて平均値を算出。
(注2) 「利用機器の合計」の利用時間は、回答者の子供が利用している各機器の利用時間を合計したもの。
(注3) 平均利用時間・2時間以上の割合については、低年齢層の子供の保護者に対して調査した7機種のうち、いずれかの機器でインターネットを利用していると回答した保護者をベースに集計。
(注4) 「令和2年度」の調査数は、総数(n=1439) 幼児・小学生(0歳~6歳)(n=85) 通園中(0歳~6歳)(n=584) 小学生(6歳~9歳)(n=770) 「令和元年度」の調査数は、総数(n=1273) 通園・通学前(0歳~6歳)(n=79) 通園中(0歳~6歳)(n=534) 小学生(6歳~9歳)(n=560) (低年齢層の子供の保護者 Q4-1、Q4-2)

(注1) 「スマートフォン」でインターネットを利用していると回答した青少年及び低年齢層の子供の保護者をベースに集計。0歳(n=2)、1歳(n=16)は回答数が少ないため図示しない。
(注2) 青少年は本人に、低年齢層の子供は保護者に対して調査した結果であるため、直接比較することはできない。
(青少年 Q2、低年齢層の子供の保護者 Q2)

インターネットの利用時間／裸眼視力

概要12 年齢別のインターネットの利用状況 -4 (利用時間)

16

○ インターネットの平均利用時間は、年齢とともに増加傾向にある。

インターネットの利用時間 (年齢別・利用機器の合計/平日1日あたり)

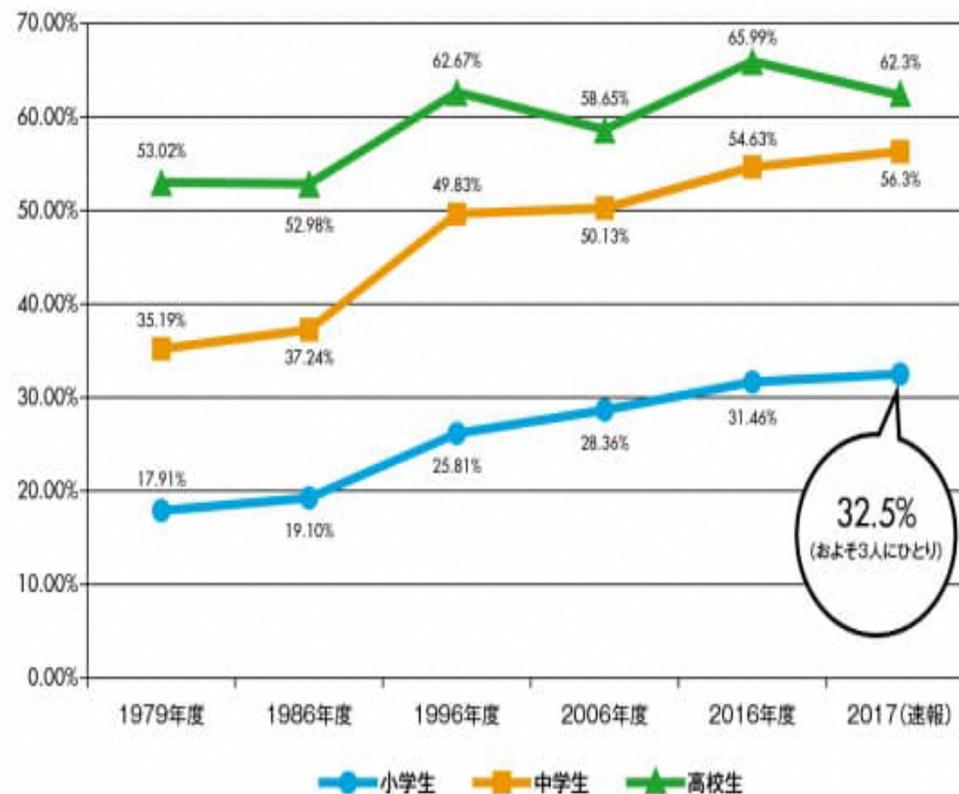
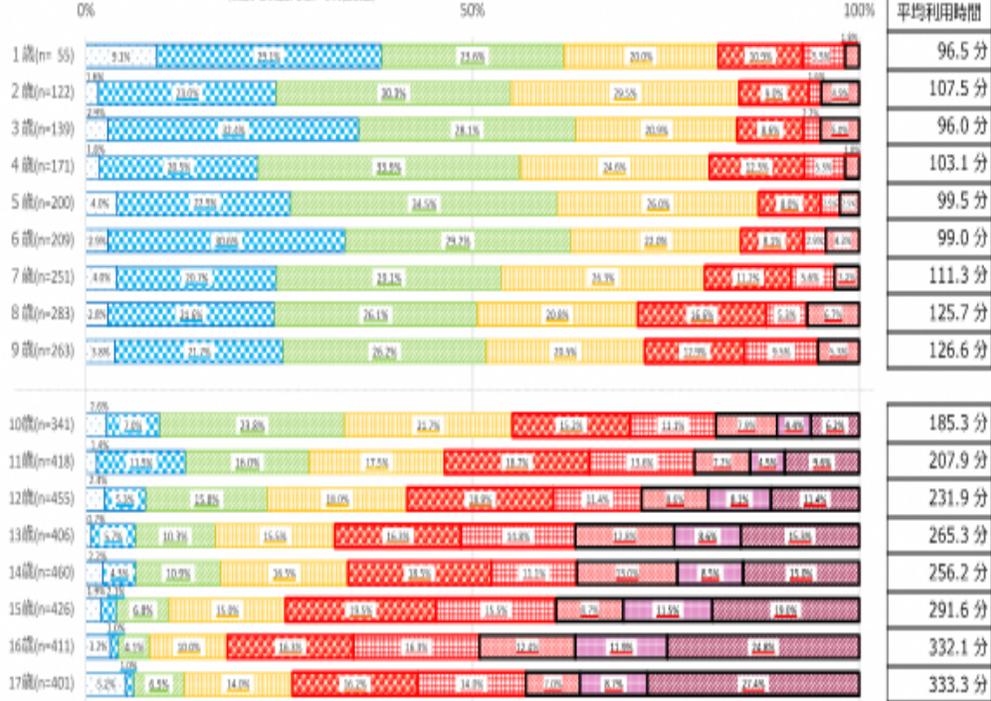


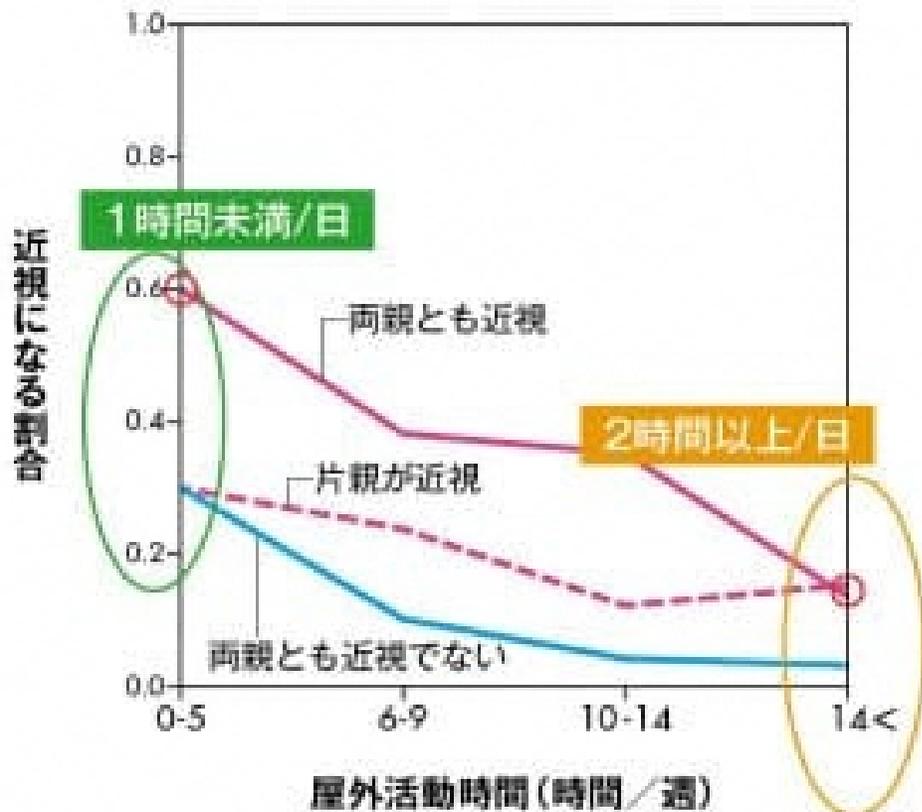
図1 裸眼視力1.0未満の子どもの割合。近視の割合は年々増加しており、低年齢化も進む。(学校保健統計調査、文部科学省)

(注1) 平均利用時間は、「使っていない」は0分とし、「わからない」「無回答」を抜いて平均値を算出。

(注2) 「利用機器の合計」の利用時間は、青少年及び低年齢の子供の保護者が回答した各機器の利用時間を合計したもので、0歳(n=11)は、回答数がないため表示しない。

(注3) 青少年は本人に、低年齢の子供は保護者に対して調査した結果であるため、直接比較することはできない。

近視予防に何がよいか？外遊び！！



両親が近視であっても、1日2時間超外遊びをする子どもはほとんど外遊びをしない子どもに比べて、近視の発症率が3分の1以下に減った。

6～14歳の近視ではない子ども514人を1989年～2001年の12年間追跡調査し、親の近視の数別の屋外活動時間と近視発症率を分析した米国の研究。屋外活動時間が週14時間(1日2時間)を超える子は、両親とも近視でも近視になりにくい。

Invest Ophthalmol Vis Sch. 2007
Aug:4(8):3524,32)

図2 近視と屋外活動